

僕の山との出会い

布引支部 南部 哲夫

今年でヒヨコ登山会入会5年目になりました。おんたき茶屋で偶然、会員の松本さん（松ちゃん）、水野さん、稲村さんと出会い、勧誘された次第です。今は70歳過ぎで、遅い入会です。

神戸生まれ、神戸育ちでよちよち歩きの時分から、家族、親戚、友人と市ヶ原・摩耶山・六甲山に慣れ親しんでいましたが、本格的に登山を始めたのは、大学卒業後の会社勤めの時からです。本社工場勤務で、所在地は多摩川近くの川崎市、夏の恒例の部内旅行が夜行、山小屋、2泊3日の山旅行で僕の最初の登山でした。



山仲間と立山にて（右端筆者）

実は入社時に重大な問題がありました。大学時代は硬式庭球部に所属、体は鍛えていたのですが、4年生の5月ごろから原因不明の咳の症状、秋に異変を感じたら結核になっていました。治療はもちろん、留年覚悟で卒業研究をすすめながら、卒業前の2月に医者からの推薦状を持って、東京本社まで行き、人事から入社承諾、しかし職場では内密で、いろいろと精神的に苦しむことになりました。そして入社年の部内旅行、まだ薬を服用中、将来の不安もあり、参加するか、かなり迷いました。目的地は木曾駒、宝剣、山小屋はみんなでごろ寝、しかし楽しい時間を過ごせ、思い出に残る登山となりました。

その後、最初は単独で、部内で山グループも

でき、大学時代の登山経験者の先輩に教えをこい、結果的には短い期間ながら、いろんな山に行くことになりました。



先輩との縦走（右側筆者）

ただ生産技術部で自社使用の半導体製造装置設計が主な業務、残業・出張が多く、化学薬品たばようクリーンルームへの出入りもあり、いつも病気の再発を心配していました。不安の中で街中散策、テニス、麻雀、飲酒等と言わば現実逃避し、登山も同じ目的のひとつでした。

遠い昔のことで、特に僕は山名とか草木に興味がなく、個人では写真も記録も取らずで、いつ、どこに、どういうコースで行ったかの記憶は現状ほとんどありません。ただ先を急ぐ登山でした。単独の場合、金曜日、土曜日に思いついたら新宿、上野駅から夜行で向かうしだいでした。



春の塩見（真ん中筆者）

記憶に残っているのは印象強いものだけで、あんまり良い思い出はないです。例えば、山グループ5人、ずっと雨の中、沢浴いを道に迷いながら、テント2泊で立山登山、沢にかかる5つのつり橋、割れそうな踏み板で、一人ずつ慎重に渡り、夜中遅く小屋到着でご主人に怒ら

れたこと、涸沢でテントをはったその夜に初雪が降り、やむなく北穂だけ上り、すぐ下山したこと、会社を退職後、山仲間3人と尾瀬至仏山の山スキー、頂上はアイスバーン、すぐにこけて、右足捻挫、左足で登ってきた木々の間を滑って下山したこと等です。

楽しい思い出といえば、足の爪を痛め岩木山登山は断念、麓の乳頭温泉・孫六の湯で二日間温泉三昧、苗場山を越え、麓の赤湯の沢治いの5つの露天風呂、単独でも登山途中で仲間ができ、一緒に東京まで帰ってこと、夜行の前に、新宿しょんべん横丁で飲んだことぐらいです。

退職後、神戸に帰り、勤務地大阪で再就職、当初は山の会に入るつもりでしたが、次第に登山からは離れました。担当工場が荊崎、南アルプスを眺めながら、よく中央自動車道を車で走っていた時があります。リュックを積んで次は甲斐駒とってはいましたが、仕事疲れて、結局一度も実現しませんでした。

友人、職場に山仲間はおらず、山のことが話題にもならず、その後は摩耶山、六甲山のいつものコースを独りでぶらぶら歩く程度でした。ヒヨコ登山会入会で、近隣の山歩きを楽しむことができるようになりました。例会ではむしろ登山後の飲み会を楽しんでいるかもしれないですが。



布引支部の仲間と共に（右の帽子男が筆者）



山スキーを始めた頃



尾瀬 至仏山へ

涸沢にて

.....

普段物静かな？ナンちゃんから頂いた原稿。会報を楽しみにしているまっちゃん（現在闘病中）の手元に、出来次第すぐ送りますよ！有難う！ナンちゃん。

一校正させて頂いた山の徘徊人より一